

## 令和元年度 第1回 十和田市病院事業経営審議会 議事録

- 日 時 : 令和元年8月8日(木) 15:30~16:30
- 場 所 : 十和田市立中央病院 別館2階講堂
- 出席者(委員) : 織川貴司、久慈年和、櫻田百合子、赤石継美、戸来伝、泉山伸、山本由美、戸来亮、立崎享一、古川あき
- その他の出席者 : 松野事業管理者、丹野院長、工藤副院長、富浦副院長、高橋副院長、杉田医局長、接待事務局長、築場看護局長、栗山薬局長、寺山技師長、國分技師長心得、森技師長心得、清水技師長、石井副技師長、小山石医事課長、中屋敷業務課長、横岡業務課長補佐
- 次第 : 1. 開会
  - 2. 委嘱状交付
  - 3. 会長及び副会長選出
  - 4. 病院事業管理者あいさつ
  - 5. 病院長あいさつ
  - 6. 新会長あいさつ
  - 7. 議事
    - (1) 報告1. 平成30年度病院事業会計決算見込について
    - (2) 報告2. 令和元年度病院事業会計予算及び第1四半期の状況について
    - (3) その他
  - 8. 閉会

中屋敷業務課長	<p>ご案内の時間となりましたので、ただ今から第1回病院事業経営審議会を開催いたします。私は本日の司会を務めます、業務課長の中屋敷でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。はじめに、本日の資料についてですが、事前に配布する予定としておりましたが、本日卓上でのお渡しとなりましたことをご詫言申し上げます。今回お配りした資料の確認をさせていただきます。「次第」「名簿」「10 ページ綴りとなっております資料」、その他に A3版の収支状況の表とグラフでございます。不足などございませんでしょうか。</p> <p>それではここで委嘱状の交付を行います。管理者が皆様のお席に参りますので、その場でご起立の上、受領くださいますようお願いいたします。織川貴司様。</p>
松野管理者	<p>委嘱状。織川貴司様。十和田市病院経営審議会委員を委嘱します。期間、令和元年8月8日~令和3年3月31日まで。十和田市病院事業管理者 松野正紀。よろしくお願い申し上げます。</p>
中屋敷業務課長	<p>久慈年和様。 櫻田百合子様。 赤石継美様。</p>

<p>松野事業管理者</p>	<p>泉山様。 山本由美様。 戸来亮様。 立崎享一様。 古川あき様。</p> <p>以上で委嘱状の交付を終わります。ありがとうございました。それでは会議に先立ちまして、事業管理者の松野正紀よりごあいさつを申し上げます。</p> <p>松野でございます。本日は委員の皆様におかれましては、暑い中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ひとことご挨拶申し上げます。病院の外からですと分からない部分も多いかと思いますが、良いドクターが派遣されるようになってきており、病院は少し変わってきております。また、当院は毎年目標を定めて取り組んでおりますが、このところ職員一丸で取り組めるようになり、チームワークも良くなってきていること実感しております。このような変化が経営に関しても良い影響を及ぼすのではないかと期待しております。本日は、よろしくご審議の程お願い致します。</p>
<p>中屋敷業務課長 丹野院長</p>	<p>続きまして、丹野病院長よりご挨拶申し上げます。</p> <p>院長の丹野です。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は主に平成30年度の決算についてご審議いただくこととなりますが、平成30年度は、惑星直列と称されるようにいろいろなことが同時に起こった年でございます。診療報酬、介護報酬、福祉関連法の改正、そして国保の都道府県単位化、地域医療構想を含む第7次医療計画の策定などが同時に行われております。これらが、何を意味しているかを病院として考えたときに、「お宅の病院は今後どのような医療を展開していくのですか？早く決めてください」と問われているように感じております。当院は、地域のニーズや病院規模を考えると、やはり、多機能型でやっていく、それは、救急を中心とした急性期医療、がん診療を中心に、回復期、在宅も含めて、患者さんの状況に応じて柔軟に色を変えて対応できる、これを称して「カメレオン病院」でやっていくと内外にも発信しております。</p> <p>先程管理者も申し上げましたが、毎年、病院目標を掲げております。このなかで、多機能型というところを意識して、「地域医療支援病院」を取得しようという事を目標に掲げました。これは、地域のかかりつけ医の先生方を支援しようという目的でありまして、その中の大きな条件として、逆紹介率が70%以上というのがあります。この率につきましては、平成29年度は63%位でありましたが、平成30年度は職員一丸で取り組みまして82%と条件をクリアしました。現在、県に申請している段階でございます。本日の資料には、このあたりのデータはございませんので、お話をさせていただきました。本日はどうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>中屋敷業務課長</p>	<p>ここで本日出席しております病院の職員を紹介いたします。</p> <p>事業管理者の「松野」です。 院長の「丹野」です。 副院長の「工藤」です。 副院長の「高橋」です。 医局長の「杉田」です。 看護局長の「築場」です。</p>

<p>丹野院長</p>	<p>薬局長の「栗山」です。 放射線科技師長の「寺山」です。 臨床検査科技師長心得の「國分」です。 栄養科技師長心得の「森」です。 リハビリテーション科技師長の「清水」です。 臨床工学科副技師長の「石井」です。 事務局長の「接待」です。 医事課長の「小山石」です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それではこれより組織会に移ります。 まず、会長の選任については、仮議長を選任してから進めたいと考えておりますが、事務局から指名してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>それでは丹野院長に仮議長を務めていただき、会長の選任をお願い致します。 それでは、暫時の間仮議長を務めさせていただきます。次第にあります、会長・副会長の選任について議題といたします。会長・副会長につきましては、経営審議会条例第 3 条第1項の規定により、議員の互選によって定めるとございます。</p> <p>まず会長についてはいかがいたしましょうか？</p> <p>(仮議長指名の声)</p> <p>はい、それでは仮議長・事務局一任というかたちでよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>ありがとうございます。それでは、案といたしまして織川委員を会長にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p>
<p>織川会長</p>	<p>はい、それでは異議なしと認めさせていただきます。 それでは、経営審議会条例第3条第2項の規定により、会長が議長となりますのでここで議事を交代させていただきます。それでは織川会長よろしくお願ひいたします。</p> <p>ただ今、会長に選任いただきました、十和田市議会民生福祉常任委員長の織川でございます。よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>それでは、次に副会長の選任をしたいと思いますが、いかがいたしましょうか。</p> <p>(会長指名の声あり)</p> <p>会長指名ということでよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なしの声あり)</p> <p>それでは、泉山委員にお願いいたします。</p>
<p>中屋敷業務課長</p>	<p>スムーズな選任ありがとうございました。 始めに確認すべきところでありましたが、当審議会は委員の半数以上の出席により成立することとなっております。本日は 12 名中 10 名の委員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしておりますことを確認させていただきます。</p> <p>それでは議事に入ります前に、織川会長よりご挨拶いただきます。</p>

<p>織川会長</p>	<p>ただ今、委員の皆様のご推挙により会長に就任いたしました織川でございます。よろしくお願ひ申し上げます。さて、中央病院は、地域において安心な医療を提供する中核として、また、その経営状況につきましても、市民の関心は非常に高いものがございます。平成 21 年度の病院経営改革検討委員会の設置に始まり、平成 22 年度は地方公営企業全部適用への移行、そして、市からの不良債務全額解消の支援などがございました。また、平成 23 年度からは市の支援を受けながらではありますが様々な経営改善に取り組んできていると聞いております。</p> <p>平成 29 年度決算では、いわゆる現金ベースでの収支が黒字を計上したとのことで、病院職員の皆さんの取り組みの成果が表れたものと思います。中央病院は地域において、また、市民にとって必要不可欠な医療の拠点となっております。市民が安心して暮らすことができるような病院になるよう私ども病院経営審議会は、これまで以上にその果たすべき役割は重大だと考えております。</p> <p>日夜勤務されている医師並びに看護師さんを始めとする病院職員の皆様とは、また違った角度から様々な意見や提言などを発信し、よりよい病院づくりの一助になればと考えております。本日は新メンバーでの第 1 回目の会議となりますが、私は、本審議会の会長として、その責任を果たして参りたいと考えておりますので、松野事業管理者はじめ丹野院長、そして委員の皆様には、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。以上、簡単ではございますが、会長としてのあいさつに代えさせていただきます。</p>
<p>中屋敷業務課長</p>	<p>それではさっそく議事に入りたいと思います。十和田市病院事業審議会条例第 3 条第 2 項の規定により、議長は会長が務めることとなっておりますので、会長よろしくお願ひいたします。</p>
<p>織川会長</p>	<p>それではただいまより議事に入ります。「報告 1 平成 30 年度病院事業会計決算見込について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>横岡業務課長補佐</p>	<p>それでは、お配りしている資料「報告 1 平成 30 年度病院事業会計決算見込について」の 1 ページをご覧ください。</p> <p>平成 30 年度決算見込においては、平成 29 年度決算に比較し、収益的収支が 355,722 千円、率にして 4.4% 伸びました。一方、収益的支出も、金額にして 169,037 千円、率にして 2.0% 伸びましたが収入の伸びが大きかったことから、収支は金額にして 186,685 千円、率にして、39.0% の改善となりました。ただし、依然として純損失が発生し得ている状態です。収入が伸びた主な要因といたしましては、平均在院日数が短縮したこと、また昨年度実施しました、業務の効率化による診療報酬の増点事業により、診療単価が上昇したと考えております。</p> <p>次に、資本的収支でございます。平成 30 年度決算見込におきましては、平成 29 年度決算と比較し、資本的収支が金額にして 48,261 千円、率にして 6.3% 減少しました。一方、資本的収支は金額にして 30,393 千円、率にして 3.2% 増加しました。支出では、企業債を財源とする医療機器購入額が 27,571 千円増加したことが主な要因となっております。</p> <p>続きまして、実質単年度資金収支算出のための控除額等でございます。実質単年度資金収支、いわゆる現金ベースの収支を算出するために必要な、現金の伴わない収入</p>

	<p>額と支出額及び前年度引当金等の取崩額、これは決算書には表れない現金支出でございますが、これらの収支でございます。非現金収入の主なものは、引当金戻入益 175,477 千円でございます。非現金支出の主なものは、減価償却費 846,194 千円、賞与引当金繰入額 196,989 千円です。前年度引当金等取崩額の主なものは、賞与引当金及び法定福利引当金の 219,580 千円です。</p> <p>これらを基に算出いたしました、実質単年度資金収支、現金ベースの収支でございます。現金ベースの収支は、平成 26 年度から平成 28 年度までの3年間は赤字でございます。平成 30 年度決算では 139,336 千円の黒字を見込んでおります。平成 29 年度は 931 千円の黒字でございますので、さらに収支が改善できたと考えております。最後に参考といたしまして、一般会計からの繰入金は、平成 30 年度決算見込では平成 29 年度に比べて 44,364 千円の減額、そのうち基準外については 79,672 千円の減額となっております。私からの説明は以上でございます。</p>
<p>織川会長 久慈委員</p>	<p>ただ今の説明につきまして、ご質問、ご意見ございましたらお願い致します。</p> <p>平成 29 年度から平成 30 年度と収支が改善しているという事ですが、主な理由は何でしょうか。</p>
<p>接待事務局長</p>	<p>患者数はそんなに変わっていないのですが、やはり診療報酬の請求事務の見直しとか、先生方にも協力していただき、患者の回転率が良くなってきているとか、いろんな要因があると思います。詳細は後ほどご説明します。</p>
<p>織川会長</p>	<p>次に「報告 2. 令和元年度病院事業会計予算及び第 1 四半期の状況について」事務局の説明を求めます。</p>
<p>横岡課長補佐</p>	<p>資料の2ページをご覧ください。令和元年度の病院事業会計予算についてでございます。まず、1の急性期医療の展開による入院収益の確保ということで、急性期医療機関として当院の診療体制に即した新入院患者数を見込みまして、令和元年度は平成30年度に比べて 202,575 千円増加しております。その下の表ですが、この予算積算の根拠となっております数字でございます。一般病床の入院患者数は 228 人で診療単価を 54,000 円、地域包括ケア病床が 38 人で診療単価は 35,000 円を見込んでおります。いずれも、平成 30 年度実績で診療単価が上昇しておりますので、これを踏まえた目標値としております。外来収益につきましては、平成 30 年度と比較しまして 75,328 千円の増と見込んでおります。救急患者の積極的な受け入れとともに、紹介・逆紹介を進め地域の医療機関との連携を更に強化することとしております。次に、一般会計からの繰入金につきましては、15,764 千円の減額となっております。新病院建設や医療機器購入に係る元利償還金に対する繰り入れでございます。新病院建設に係る元金分につきましては、基準外の繰入となっておりますが、これを段階的に減らしていくこととなっており、平成 29 年度までは 1/2 であったものが、平成 30 年度から 1/3 に減じられております。医療機器の購入ですが、令和元年度は 450,000 千円となっております。昨年度より 300,000 千円増となっておりますが、今年度は、高額医療機器の更新がありますことから大幅に増額となっております。主なものは、X線CT装置、薬剤自動払出装置、また、院内の電話交換機設備の更新となっております。企業債の償還でございますが、今年度は 450,000 千円を計上しております。簡単ではございますが、私からは以上でございます。</p>

織川会長	<p>それでは、ただ今の説明につきまして、ご質問、ご意見ございましたらお願い致します。</p>
戸来伝委員 接待事務局長	<p>先程、後で詳しく説明するといった内容をお願いします。</p> <p>ただいま説明のあった内容について、本日お渡しした、A3版の2枚の資料をご覧ください。まず、年度別収益的収支の状況ですが、平成20年度からの推移をお示しています。平成20年度から純損益は赤字が続いております。新病院改革プランのスタートは平成28年度で、平成32年度までの5年間が計画期間となっています。平成28年度の純損益は8億9千万円、29年度が4億7千万円で約5億の減、そして、平成30年度には2億9千万円と順調に減ってきております。これに伴いまして、現金ベースの収支について、平成29年度には、わずか931千円ではございますが黒字化することができました。平成30年度につきましては、139,336千円と大幅に改善できましたが、やはり、純損益を黒字化したいということで取り組んでおります。</p> <p>もう一枚の資料、直近3か年の月毎の収支状況の表をご覧ください。これは、給与費や減価償却費など特定の月に大きな変動のある経費を平準化して、毎月の収支を表したものでございます。これをする事によって、各年度の毎月の収支を比較できるということになります。令和元年度は6月実績までできました。3ヶ月とも現金ベースが赤字となっております。3ヶ月の累計で47,000千円程の赤字となっておりますが、平成30年度も4月から6月までの累計で46,000千円の赤字でしたので、同じような状況となっております。一般入院患者数につきましては、この表からも分かるとおおり260人を超えた月が黒字を計上していることが分かりましたので、今年度はまだ達成できていませんが、先日の医局会でも先生方にご説明し、協力をお願いしたところでございます。</p> <p>先程の質問で、どのような改善策があったのかということではございますが、このように毎月の収支をお伝えしてきたことがひとつの改善策になったと考えております。</p>
戸来伝委員	<p>純損益は、令和元年度の予算でも赤字を計上していますが、何か特別な対策はあるんでしょうか。</p>
接待事務局長	<p>やはり、入院患者数が266人いければ赤字が解消できると思いますので、電子カルテにも患者数を掲載して見えるようにしていますので、上半期の後半から下半期にかけてこれを意識して取り組んでいきたいと考えています。</p>
戸来伝委員	<p>今の回答では、入院患者数がすべてであるという言い方にしか聞こえませんが、資料に常勤医の推移がありますが、産婦人科をはじめとした医師確保についてなにか考えはありますでしょうか。</p>
接待事務局長	<p>医師数についてですが、実は、平成30年度は常勤医師数が3人減となっています。それでも、赤字が減っています。先生方に頑張っていたいただき、3人減でも収支を改善できていることを評価していただければと思います。管理者、院長には、大学への訪問など医師確保につきましては引き続き活動していただいております。</p>
丹野院長	<p>平成29年度に収支が改善したことは、医師数の増が関連していることは間違いないと思います。今後も、医師確保には全力を尽くして参りますが、先程説明があったとおおり、平成30年度に医師が減少したのにもかかわらず、収支がさらに改善したことは、当院としては今までにないパターンでございます。これは、救急医療を中心とした当院の診療の</p>

戸来伝委員	<p>取組みが馴染んできたといえますか、こういう働き方をすれば、こういう結果が出るという考え方が職員に共有できてきたということだろうと考えています。もちろん、これに医師の数が増えればさらに経営が良くなっていくだろうと思いますので、委員ご指摘のとおり、医師の確保が重要であるということは、十分自覚しております。ただ、なかなか具体的な案というの難しい現状ではございますので、大学へのお願いやPRをし続けていくしかないと考えています。</p> <p>医師確保はなかなか容易ではないということですが、やはり、お産するところがないというのは、市民の皆さんの声でありますので、早く確保していただかないと、新病院になってから年数もたっていますし、これで良いということではないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
丹野院長	<p>ご指摘のとおり、どの診療科も大事ではございますが、産科は最重要課題と認識しておりますので、再開に向けて努力していきたいと思ひます。当院には、助産師も多くおられますが、そのスキルが落ちないような取り組みも行ってあります。</p>
古川委員	<p>糖尿病内科の常勤医師がゼロになっています。しかしながら、患者数を見ますと、平成29年から30年と増加してきておりますので、これに対する対策もして頂きたいなと感じております。以上でございます。</p>
丹野院長	<p>糖尿病につきましては、十和田地域の課題であることは認識しております。外来につきましては、大学の協力を得ながら対応していきたいと考えておりますし、入院につきましては消化器内科の先生方が受け持っていただくという体制は出来ておりますので、まだまだ不十分ではありますが、徐々に診療体制を充実させていきたいと考えています。</p>
立崎委員	<p>要望です。資料が今日配られました、当日色々な数字を説明されても、なかなか質問が難しいですので、事前に少しでも勉強できるよう、早めに配布していただきますようお願いいたします。</p>
泉山委員	<p>ただいま、事務局長さんを始め色々説明をいただきましたが、ひとつ違和感があります。確かに入院患者数が増えれば、病院の経営は改善していくと思ひます。しかし、十和田市は、合併する前よりも人口が減少しています。出生数も減少して自然減の地域です。冷静に考えれば、あまり入院患者を増やすよう先生方へお願ひするというのは、医師会長として大変違和感を覚えます。医療というのは営業ではありません。この点を経営のためということで汚されたくないと思ひます。いま勤めている先生方も商売をやるために来ているわけではありません。もうすこし考えをプラスの方向に向けて、この人口減の時代にどのように軟着陸させるかを考えていただきたい。院長先生がお話した地域包括病床を増やすこともあるとおもいます。一般病床については、新しい病院となるときから、もともと無理があった計画だったと思ひますので、市がある程度の経費を負担するのは仕方のないことだと思ひます。もっとコンパクトで経費の掛からない病院にするはずだったと思ひます。当初は医師会にもそのような説明だったと記憶していますが、このようになったのは、市や議会の責任もあるのではないのでしょうか。ですから、どうか、あまり経営のことで病院の職員が疲弊しないように、市民の要望もいろいろとあるかと思ひますが、取捨選択しながら取り組んでいただきたいと思ひます。</p> <p>医師会は、開業医、勤務医が半々の団体ですので、勤務医の皆さんのことも考えていかなければなりませんので、医師会長としての意見を申し上げました。</p>

接待事務局長	ご意見ありがとうございます。少し肩の力が抜けた感じがしますが、やはり、健全な経営があつてこそ医療を提供できると考えていますので、少しずつ、赤字解消に向け取り組んでいきたいと思っております。
織川会長	そのほか、ご意見ございませんか。  【なしの声あり】
織川会長	それでは、これをもちまして議事を終了いたします。 せつかくの機会でございますので、このほかに病院経営など対しまして、何かご意見、ご要望などございませんでしょうか。  【なしの声あり】
織川会長	それでは、これをもちまして、令和元年度第1回の経営審議会を閉じたいと思います。皆様ご協力ありがとうございました。